



ご来賓のご挨拶
林 伸一郎
在モンゴル日本国大使館 公使参事官

皆様、こんにちは。本日は日本語で挨拶をさせていただきますことお許しくください。まず、第13回、日本語教育シンポジウムの開催、おめでとうございます。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、日本語を教える皆様のお仕事にも大きな影響があったと思います。そのような状況にも関わらず、こうしてこの日本語教育シンポジウムが継続して開催されたこと、そして多くの日本語を愛する人が集まって下さったことに改めて心から御礼を申し上げます。

私はこのシンポジウムで3年続けてご挨拶の機会を頂き、一昨年も、去年も話をさせていただきましたが、今年も一つさせていただきたいと思います。日本語の先生方の前で言うのは恥ずかしいのですが、私は最近、知り合いのモンゴルの人に日本語を教えています。そこでいきなりぶつかる大きな壁が、「富士山が美しい」、「富士山は美しい」の違いをどう説明するかです。この違いを教えていらっしゃる皆様は偉いです。私は2つの文をしっかりと読んでみても説明ができません。日本人なら、何となく使い分けしているとしか言えないのです。例えば「昔々あるところに、おじいさんとおばあさんがいました。おじいさんは山に芝刈りに、おばあさんは川に洗濯に行きました。」というフレーズの中で、どうして最初の一文には「が」を使う必要があるのでしょうか。皆様はご存知かと思いますが、つまり、初めて出てくる情報や新しい情報を紹介する時には「が」を使い、そうではない時には「は」を使うようです。でも、それだけではないような気がして、もやもやとした思いはあります。

話は変わりましたが、10月に日本の茂木外務大臣がモンゴルを訪問しました。大変でしたが、外務大臣の訪問は嬉しかったです。ところが、実はもっと大変な目に遭った人達が大使館に11人にいます。何があったかという、外国からモンゴルに来て隔離されていない人達（茂木外務大臣一行）にお会いしたということで、私たちの大使、また、大臣一行の接遇にあたっていた館員は、茂木外務大臣が日本へ帰国した直後に空港からホテルに移送され、現在ホテルで隔離されているのです。このような状況でも、茂木外務大臣が来て下さったことは大変良かったです。モンゴルでは今年6月の選挙で第2次フレルスフ内閣が発足し、日本では9月に、8年以

上総理大臣を務められた安倍総理が退任され、新たに菅内閣が誕生しました。お互いの新政権が誕生した直後に直接面会し、これからの協力関係を強化していこうと話し合えたことはすごく良かったと思います。

そこで、思うんです。「モンゴルが日本と協力をしている」という言葉を通訳 翻訳するとき、「協力している」ということはつまり、モンゴルが初めて日本に協力してくれているわけではないという意味ですね。「モンゴルは“いつも”日本と協力してくれています」と翻訳 通訳をすることが、小さいですがとても大切な違いになります。モンゴルをよくご存じでない茂木大臣に対して「モンゴルが日本と協力してくれます」と伝えるのか「モンゴルが日本と協力してくれています」と伝えるのか。通訳をするときに、このニュアンスの違いを伝えることは重要です。

通訳の方は、そういったところを一つ一つ気を付けて言っていってらっしゃると思います。おそらく、これから話をされる新崎先生もそうでしょうが、そうした辞書には載っていない、モンゴルの人々がずっと暮らしの中で培ってきた文化や、日本人が小さな島で生きる中で育んできた感情だというものが小さな言葉一つ一つに反映されていて、きっとそれを丁寧に、丁寧に結い取って、翻訳と通訳ができているのだろうなということ、何となく自分で初めて日本語を教えてみて思いました。

またつまらない話をしていまいましたが、今日のシンポジウムがいつも日本語と向き合っている皆様にとって大切なものとなることを心から祈っていますし、そうなることを信じています。どうもありがとうございました。